



第1回不登校対策ハーモニーハート研修会 開催



7月2日(月)第1回不登校対策ハーモニーハート研修会を開催しました。
今年度は、『不登校児童生徒支援委員会』を『不登校対策ハーモニーハート
研修会』と改め、新たにスタートしました。研修会の目的は、不登校児童生徒
の**早期発見、早期解決、未然防止**、そして**ともに学び合う**ということです。

今年度の研修会テーマは「**不登校児童生徒の保護者への具体的な支援方法について**」です。

第1回は、講師として森川 泉先生(三重県スクールカウンセラースーパーバイザー)をお迎え
し「不登校児童生徒を抱える保護者の具体的な対応 ~子どもたちへつなぐ~」という演題でご講演
いただきました。最初の30分間は森川先生に講演いただき、後半は参加された先生方からの**保護
者対応に関して日々の実践の中で悩んでいること**についての質問に、時間の限り答えていただきま
した。

子どもは『手塩にかけて育むもの』

子どもは思い通りに動かないもの。それなのに、親は「早くできること」
「手が抜けること」「思い通りにできること」を願っていないか？
「自分が求める子ども像」をつくっていないか？
「あるべき子どもの像」に近づけようとしていないか？？

森川先生より助言いただいたこと

- ◎不登校は**心のエネルギーがなくなってきたという状態**。何か知らないが減っている状態。
心が疲れている。本人が自分でやりくりしようとするところまでは持っていかないと動かない。
親の気持ちではなく、子どもがどうしたいのか、子ども中心の考えにしたい。
- ◎子育ては、時間を飛ばすのではなく、**時間をかけて紡ぐもの**。
- ◎教師は、子どもの様子に瞬時の感情で反応しないこと。「これくらいのこと」と思わずに**丁寧
に聞き込んでいく**のが大切。
- ◎父性的関わりは学校には必要だが、不登校になったら**母性的関わり**で対応するようにしたい。
- ◎教師という立場は置いておき、まずは1人の人間として、子どもや保護者に話を聞く。弁解は
無力である。
- ◎家庭訪問(1週間に1回程度)は有効である。**直接会いに行き、話を聞き込む**。まずは、二者
関係の形成から行う。訪問時、普段は雑談から入るとよい。興味関心のあることを話したい。
- ◎社会的要請(学校に行く)「~すべき」に応えようとするエネルギーを使う。自分が「~し
たい」という**内的要請はエネルギーが貯まる**。何もしないボーッとした時間も内的要請の一つ。
- ◎保護者には、朝・夕ご飯の内容、便通の状況、睡眠(よく寝た、眠れないなど)をチェックし
てもらいたい。子どもと関わる時間が少ないときは、一緒にお風呂に入るとよい。フッ
と心に湧いたことを、ポソッとつぶやく時間が大切。

<タイプ別保護者の対応について>

- ・心配性…今は心配のあまり先が見えていない。話を聞き込むことで、まずは情緒安定を図る。
- ・放任的…放任したくて、放任しているわけではない。どんなに放ってあっても絶対によくしたいという思いがある。そう思って、話を聞き込む。
- ・他罰的…話を聞き込みすぎるとしんどいが、保護者はここ（学校）で言うしかできない。地域から孤立している可能性もある。受け止めていく気持ちで話を聞き込む。

<保護者対応の質問より>

○毎日登校しづりがあり、学校に来て1～2時間保健室で過ごし帰宅する子どもの保護者

→このままいけば、エネルギーが切れるかもしれない。休みの日に、本人のエネルギーをどれだけ貯められるかが重要。保護者にも負担があるため、頑張りを慰労し、肩の荷を下ろしてもらうようにする。

○連絡がつかない保護者

→家庭訪問を繰り返し、会えなくてもメモなどの跡を残してくるようにする。伝わるものがある。

○聞き分けがよく、保護者や担任の顔をうかがう子どもの保護者

→保護者には「～ねばならない」という強迫傾向がある。小さい頃からの環境が大きく影響している。目標達成度は80%くらい、ほどほどでよいと伝えていく。教育支援センターNESTなど相談機関を勧めるのも一つ。

○学校への要望（クレーム）が多い保護者

→保護者の要望に100%応えるのではなく、対応しながらも、人間は100%は応えられないという実感を伝えていくようにする。

○子離れできない保護者

→「心をかけて、手をかけないという方法もあります。」と、関係を深める中で伝える。



<アンケートより>

- ・「本人が自分で自分をやりくりできる支援」を行うということ。行かせたいという焦りをなくし、はたらきかけていくことが大切だと感じさせられた一言でした。
- ・「心の育て直しはいつからでもできる。」「心のエネルギーを貯めていく。」「無理やりはモノ扱い、自分の思い中心の関わり。」という言葉が印象に残った。
- ・「これから先を心配するよりも、今できていることは何かを考えていきましょう。」「本人が自分で自分をやりくりしようとする気持ちになることを支援する。」、この二つの言葉が特に印象に残っています。大切にしていきたいと思います。
- ・「無条件の愛」という言葉が心に残りました。私が受け持つ生徒も、親を試しているような気がします。じっくりとその子の心に寄り添いながら関わっていききたいと思います。



**第2回は、1月15日（火）に三重大学教養教育機構発達臨床心理学研究室
教授 瀬戸 美奈子先生をお迎えし、開催する予定です。ぜひ、ご参加ください。**

<お詫びと連絡>

時間の都合上、当日お答えいただけなかった質問に関して、森川先生に後日お答えいただき、質問用紙を研究所にてお預かりしております。「後日、たよりに掲載させていただきます。」とお伝えしましたが、個人情報も多く、すべてを掲載することができませんでした。返却を希望される方には、ぜひお渡ししたいと思いますので、研究所までご連絡願います。

【連絡先：伊勢市教育研究所 教育支援センターNEST（世古まで） Tel.0596-22-7901】